

都市構造可視化の活用

～R9年度用途地域見直しに向けて～



兵庫県 尼崎市
都市計画部 都市計画課

1.はじめに

●位置

阪神広域圏に属する尼崎市は、大阪平野の西部にあって、兵庫県の東南部に位置し、東は神崎川、左門殿川を隔てて大阪市と、猪名川を挟んで豊中市と接し、北は伊丹市と、西は武庫川を境に西宮市と接し、南は大阪湾に面している。

●広域交通網

鉄道、幹線道路等による広域交通機能の整備が図られ、阪神間各都市へはもとより、大阪国際空港、関西国際空港及び神戸空港の3つの空港のほか、新大阪駅等へのアクセスに優れている。

●尼崎市の現況（令和7年3月31日現在）

総人口：457,072人

世帯数：245,469世帯

面積：50.70km²

●都市計画の特徴

公有水面や河川敷、公有水面埋立て事業中のところを除いて、ほぼ全域が市街化区域

産業都市として発展してきたことから、工業系用途地域が市域の約1/3を占めており、南部の臨海部には工業専用地域が広がる。



2.都市構造

コンパクトで持続可能なまちを形成

・ 尼崎市都市計画マスタープラン

日常生活に必要な施設がバランスよく配置された「歩いて暮らせるゾーン」と本市の職住近接を支える「産業ゾーン」等を基本に、鉄道駅周辺の「拠点」を「都市の骨格」が形成するネットワークでつなぐ、コンパクトで持続可能なまちを目指す。

○都市の骨格

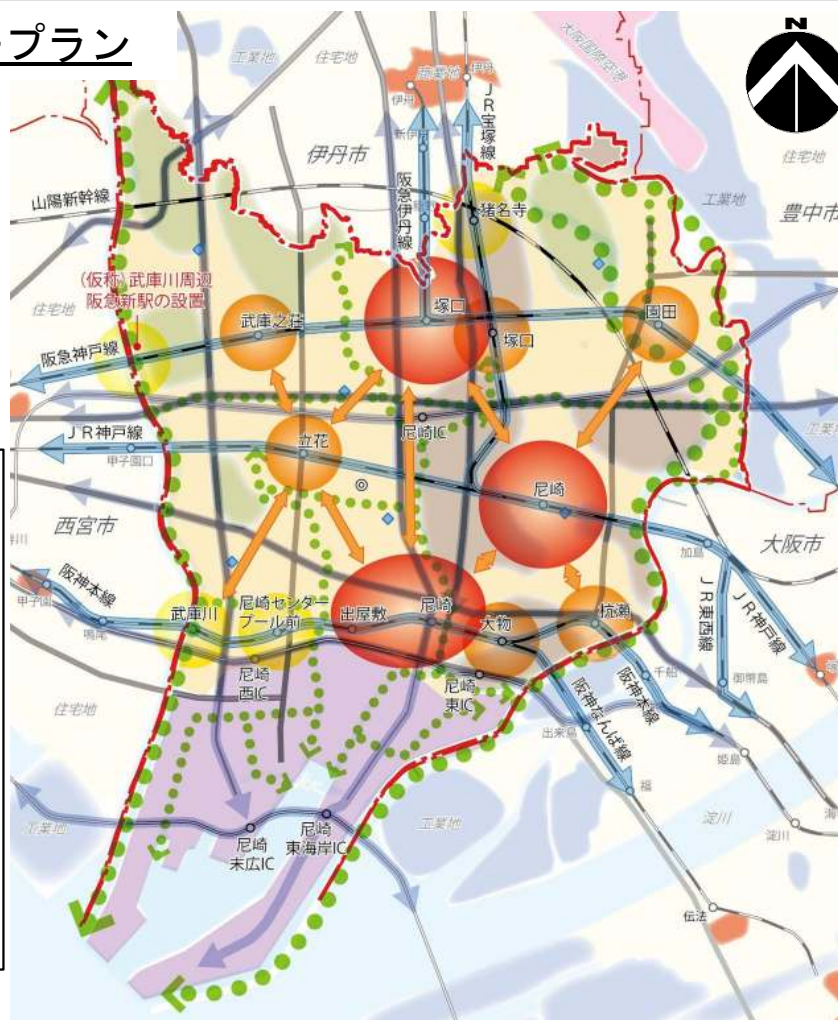
3 鉄道（阪急線、JR線、
阪神線）＋バス網
さらなる利便性向上

武庫川周辺阪急新駅設置

⇄ 広域連携軸：幹線道路

⇄ 広域連携軸
：基幹的な公共交通軸

⇄ 地域連携軸
：基幹的な公共交通軸（路線バス）



○ゾーン

鉄道沿線ごとに特性
ある市街地の形成

歩いて暮らせるゾーン

緑ある空間に囲まれて
暮らせるゾーン

都市型産業ゾーン

産業集積ゾーン

○拠点

駅周辺に都市機能を
集積

広域拠点

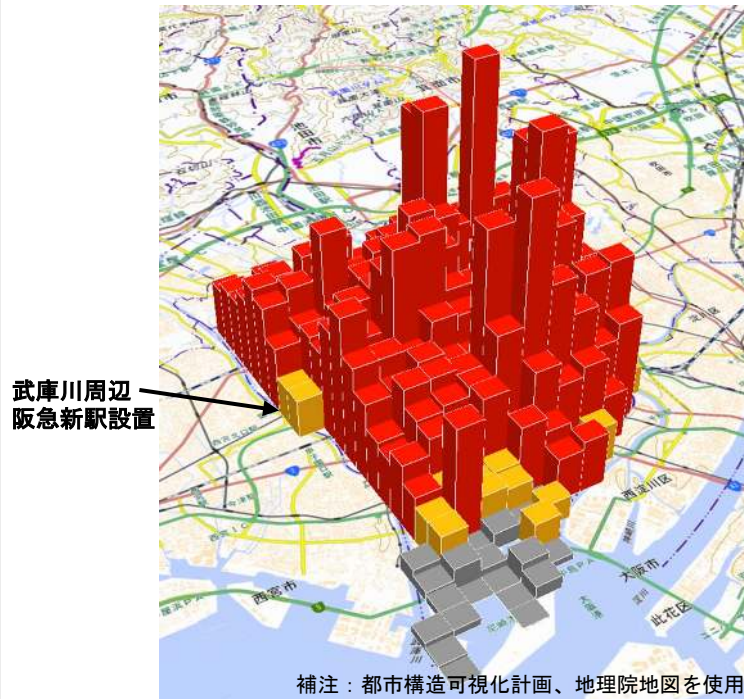
地域拠点

生活拠点

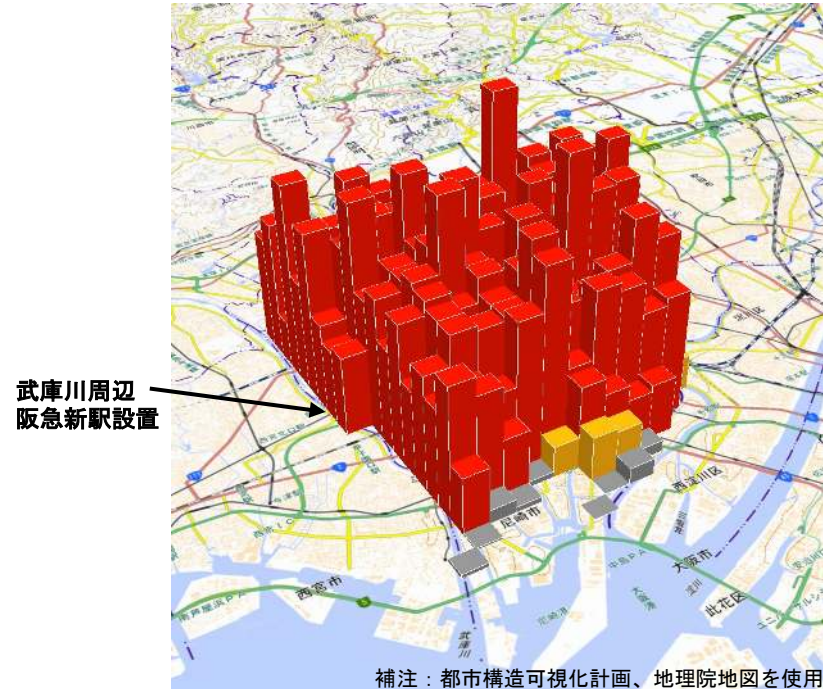
3. 昼間人口と夜間人口の比較

都市構造可視化により昼夜間の人口を比較

○人口密度は昼間より夜間の方が上回っており、昼間は通勤・通学等で市外に流出していることが分かる。特に、市の西部でその傾向が強く出ている。



メッシュサイズ 500m×500m
年 2015年
高さ 昼間人口
色 昼間人口密度
■ 40人/ha～ ■ 20～40人/ha
■ 0～20人/ha

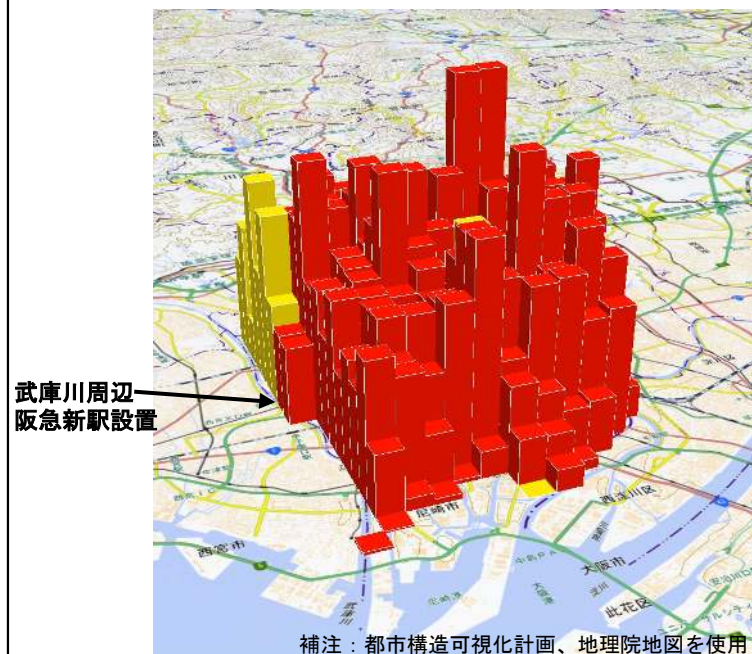


メッシュサイズ 500m×500m
年 2015年
高さ 夜間人口
色 夜間人口密度
■ 40人/ha～ ■ 20～40人/ha
■ 0～20人/ha

4.公共交通利用圏における人口等の把握

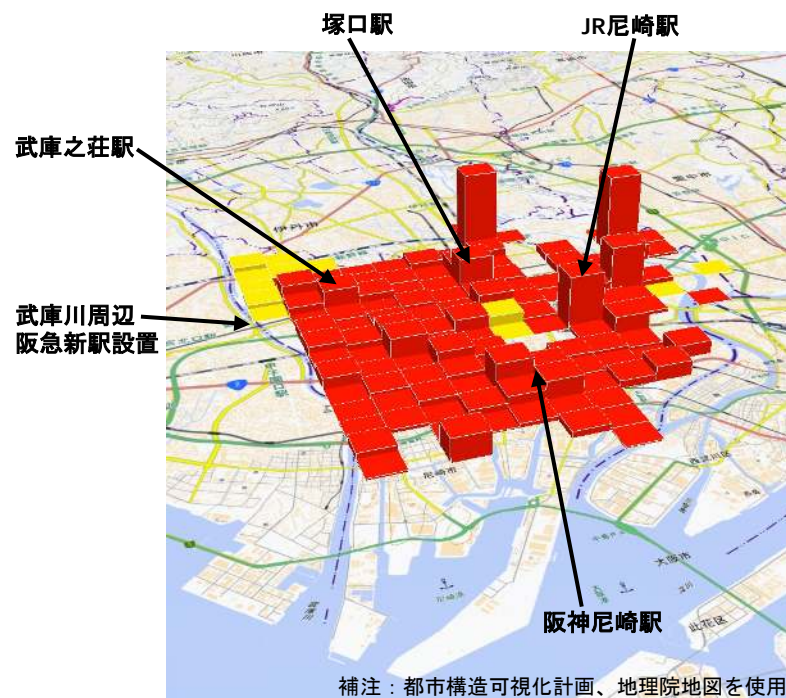
公共交通利用圏の人口、小売業年間販売額の把握

○公共交通利用圏では「駅・バス利用圏」や「バス利用圏」に関わらず人口が多い。小売業年間販売額は大型ショッピングモールや鉄道駅周辺において高くなっている。



メッシュサイズ 500m×500m
年 2020年
高さ 夜間人口（100人/100m）
色 公共交通利用圏

■ 駅・バス利用圏 ■ 駅利用圏
■ バス利用圏 ■ 駅・バス利用圏外



メッシュサイズ 500m×500m
年 2014年
高さ 小売業年間販売額（億円）
色 公共交通利用圏

■ 駅・バス利用圏 ■ 駅利用圏
■ バス利用圏 ■ 駅・バス利用圏外

5.建物用途の分布状況の把握

都市構造可視化により建物用途の分布状況把握

○武庫川周辺阪急新駅周辺は住宅地が形成されており、徒歩圏内には生活利便施設等の立地が少ない。また、生活サービス施設などの都市機能は武庫之荘駅周辺に集積されている。



■凡例

住宅	商業施設	工業施設	官公署施設
商業・業務兼用住宅	文化教育施設	運輸流通施設	

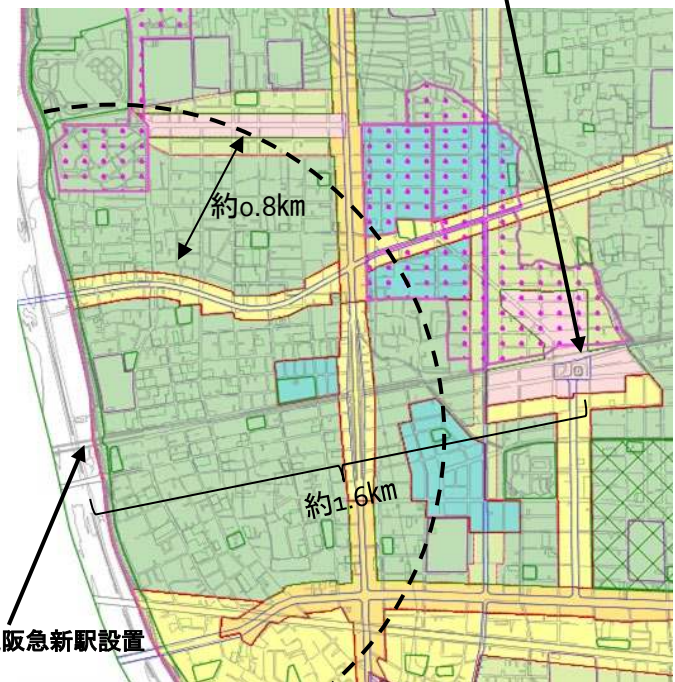
武庫之荘駅

武庫川周辺阪急新駅設置

約0.8km



武庫之荘駅



6.おわりに

都市構造可視化を活用したまちづくり

- 都市構造の可視化
 - 視覚的にデータが整理され、問題点の共有がスムーズ
 - 庁内連携や住民説明会での合意形成ツール
- 今後の活用
 - 庁内会議での活用
 - 都市計画の変更にかかる住民説明会での活用
 - 都市計画審議会での活用

